

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームさんぼみち	評価実施年月日	2009年2月1日～20日
評価実施構成員氏名	佐々木幸子 佐渡広成 菊地厚子 不動木幸子 石川みゆき 星野郁代 久保田友子 山本純子 大谷尚子 川端光子 中岡久美子 五十嵐琴美 奥山とく子 巽芙美子		
記録者氏名	佐々木幸子	記録年月日	2009年2月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人の理念である「老いても安心して住むことができる地域、共に支えあい、安心して老いられる地域づくり」を基に『共同生活を営む一人ひとりの尊厳を守り、より豊かな人生を送っていただく』の理念を掲げている	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ケアは理念なくしてできない。理念を職員と共有しながら、その実践に向けてケアしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族会や運営推進会議の都度、理念をレジュメに書き、さんぼみちのケアを具体的に伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の人に気軽に声掛け合ったり、立ち寄ってもらえるような雰囲気作り努めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入り地域の一員として行事などに積極的に参加し交流を深めている。又食材等をできるだけ近隣の商店で購入するように努めている	隣接していた小学校が無くなり、子どもとの交流が少なくなったので、他の方法で地域の子と交流する機会を持てるように検討している。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症のことで相談してもらえるように町内会の役員と話し、受け容れる体制を整えている。	認知症対応型通所介護共用型に近所の対象者に来ていただくために情報を集めたり働きかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価を実践する時は、日頃行なっているケアの振り返りの機会と捉え職員会議等で具体的に話し、改善できるように進めている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では入居者の状況、又日常行なっている事を報告し、課題と一緒に考えてもらい、そこで出た意見をサービスの向上に生かしている</p>	<p>運営推進会議の回数が充分でないことを反省し、新年度は回数を増やしていきたい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村の担当者とサービスの質の向上について、特に釧路市、釧路管内のグループホームのケアの質の向上について度々話し合いのときを持っている</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護等の研修には管理者が出席し学びケアのことについて検討をするときなどは必要性について話し、必要な人にはそれらを活用するように支援している。</p>	<p>○ 職員研修等で常に権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を作っていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者や職員が高齢者虐待防止関連法についての研修に出席し、報告と共に具体的にどのようなことが虐待にあたるか職員研修の機会をもち防止に努めている。</p>	<p>○ 生活のどのようなことが虐待にあたるか常に研修を重ね検証していきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解約については利用者、家族の不安にならぬよう十分な説明を行い、納得してもらっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	さんぼみちはここで暮らす方々が自由に生活する場であるとの基本的な考え方を常に職員間で共有している。職員は常に入居されている方々とのコミュニケーションから意見や不満がないか聞き出そうとしているので、その都度意見や苦情を言ってもらっている。	○	職員の意識やケアのあり方で変化するものであるため、入居されている方々が意見、不満、苦情を表出できるように努めていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりは毎月の通信に載せ、預かり金等の報告は定期的に行っている。家族来訪の際は体調等の報告を行うことで家族にも安心してもらっている。	○	家族への報告を常に行うことで、家族との信頼関係ができ、家族も気になっていることは遠慮なく話して下さるのでホームのケアの質の向上に繋がっているとの考えを持っているため今後も積極的に行っていききたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	グループホームの運営や質の高いケアは、職員だけでできるものではなく家族や地域の方々等多くの協力なくしてできるものではないとの考え方をもっている。そのうちの家族は自由に運営に関しても意見をいただけるよう努めている。来訪時は何かあれば言ってもらっていると確信している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議の話し合い、又日常的に意見を聞き(言えるような状態)できるだけ迅速に対応できるようにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況、状態に応じて柔軟かつ適切に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が長く勤めることが「ケアの継続」で質の高いケアが提供できると思っている。個人的事情(配偶者の転勤や結婚等)以外の離職は少ない。ストレスを溜めないよう職員間の相談等もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修への参加、及び内部研修を定期、随時に積極的に行いスキルアップに取り組んでいる。勤務中に気付いたことはできるだけその日のうちに解決できるよう努めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会を立ち上げたり、グループホーム間の情報交換や研修等に力を入れている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員に疑問や問題が生じた場合、早めに解決できるよう日ごろから話し合いや関係作りを行っている。</p>	<p>○ 職員のストレスを軽減するため、さらに工夫や環境づくりをおこなっていききたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修は勿論、一人ひとりにあわせた機会教育をすると共に、入居者個人に合わせたコミュニケーションの伝達等に取り組んでいる。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人が困っていること、不安なこと、求めていることが何かを知ることが初期の信頼関係を築くうえで大切なことであるとの認識から話し合い努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居が決定する前に相談が多くある。その後入居することが決ってから家族の困っていること、不安なこと、求めていることなどを聞く機会を作り、信頼関係を築いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたとき、ご本人や家族が必要としている支援を見極め対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居をするに際してはご自宅への訪問とグループホームへの見学や場の雰囲気を知らず知らずのうちに訪ねていただくなど徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	さんぽみちの目指している「生活支援」は入居者が主体的に暮らすことを目的としているため、入居者から学び入居者と共に生きることをめざしている。常にこの支援が適切かを検討しながら関係を築いている。		ケアは意識しながら行なっていかなければ職員主体になる。常に入居者の生活を支援するという意識を持つ事に努めていきたい
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	近況報告、相談、支援の目的や方法の説明等。又家族からの要望への対応など、お互いに納得しご本人がよりよく暮らせる支援を共に考えている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人も交えた3者の話し合いと支援を常に行っている。自宅に外出する支援にも努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	グループホームが家族や関係のあった方々が出入りしやすい居場所づくりをする事で、友人や身内が頻りにきてくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	月日を重ねる事で利用者同士の関係性が良好になり、助け合いも見られている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても良好な関係が保たれている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き(知り)、できる限り意向に副うよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者一人ひとりが、入居前の生活歴や馴染みの暮らし方が継続できるためには経過の把握を本人や家族から聴き取り行なっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	全職員が本人の生活等に関する情報を共有化が必要である、できる限りの方法で把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族の要望等を聞き、毎月のカンファレンスでの職員全員による意見交換と今後の方向性の確認、実践の意思統一を図り、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3ヶ月に1度たてているが毎月、本人の状況に応じた見直しを行い必要なら新たな介護計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録の記入は勿論のこと、連絡ノート、健康記録を活用、情報の共有化に努め日々の支援に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者の身体状況等により参加する内容等の違いはあるが、法人で行なっている事業に柔軟に参加、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じてボランティアにきていただいており、又警察や消防との話し合いを密に行うことで協力関係が保ち支援している		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の必要に応じ地域のほかのケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、支援の方法を検討している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の必要に応じ長期的なケアマネジメント等について地域包括支援センターと共同できるような体制作りを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人が適切な医療を受けられるように本人・家族の意向を聞きながらかかりつけ医と事業所の良好な関係を保ち支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関が認知症に関して詳しい為、必要に応じて受診や治療を受ける事ができる		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護師の定期的な健康管理や気軽に相談させていただくことによって入居者が安心して生活できるように支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が入院した時状態に応じて1日も早く退院できるように、家族と医療関係者と話し合いを行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期に向けて本人や家族と話し合いを行い指針を作成し、かかりつけ医とも繰り返し話している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の入居者が日々を豊かによりよく暮らせる為に、事業者のできることを見極めつつチームで支援し、更に今後の変化に備えて検討を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居者がグループホームから別の居宅サービスに移り住む際、十分な話し合いや情報交換に努め、本人のダメージを防ぐ事に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりのプライバシーには十分な配慮をしている。損ねるような対応があった場合は職員全員で検討し、同じことを繰り返さないように勤めている。</p>		<p>常に研修を重ねつつ今後もプライバシー確保の徹底を図りたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が理解できる働きかけ、言葉の選択、身体表現で説明できる限り自己決定が出来るよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の希望やペースに添った支援を第一に考え、職員側の都合によるものかどうかを常に吟味を検討している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>髪型、化粧、服装などはできる限り本人の希望に添うよう努めている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>会話の中から好みを聞き、一緒に準備や後片付けするなど、生活支援として家事への参加は大切な要素と考え実践している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつはできるだけ希望を聞く。タバコに関しては所定の場所での喫煙をお願いしている。お酒は行事の時や、時にはお酒のあう副食では好きな人に勧めたりして楽しんでもらっている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄状況の把握を行うことでオムツの利用を減らし、トイレでの排泄を促し気持ちよく生活していただく事に心がけている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	必ずしもいつも本人の希望にあわせることは難しいが、体調状況把握のうえタイミングが合えば入浴してもらっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間の睡眠状況で、眠いと訴えた時は日中でも本人の休める場所で休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事、趣味以外にも、散歩、買い物と外出の機会を作るなど、本人の好きなこと、力が発揮できる事を主体的にできるよう働きかけている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に対する理解のある入居者には希望に応じてショッピングなどで支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の買い物、体調に合わせた外出、散歩などの支援に力を入れている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族やボランティアの協力や職員の勤務調整をする事で、普段いけないところの外出支援の機会を設けている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書いたり電話をする事は必要に応じて行なってもらっている。		手紙を書ける人には年賀状とか暑中見舞いを書いていただけるように更に、積極的に関わっていきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問していただけるようにしている。また訪問の際にはお茶などを出し、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修で拘束の理解を深め、拘束を行なわないように心がけている。やむを得ずしなければいけない時はそのことについて話し合い、できるだけ早く拘束しない方法を検討している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中9時から18時まででは鍵をかけないことを徹底しておこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に個々の動きを把握するようにして安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ひとり一人の状態に応じるとともに、その日そのときの状況によって危険と思われるときは、臨機応変に対応し職員間の引継ぎを確実にこなしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故以前のヒヤリハットの検証を重ね、想定される事象への対応策を検討している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	開設時救急救命士による救急法研修を行い、その後は自己研修をしてもらっている		応急手当や初期対応の訓練を早急に行なわなければならない。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災や地震、水害時の避難方法を周知し、運営推進会議等で地域の協力を得られるように働きかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族来訪時、本人の状態を伝えて想定されるリスクについて説明と対応策を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は毎日購入するようにし、台所、調理用器具、食器などの衛生管理に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>入居者や家族、近隣の人たちが親しみやすく、安心して出入りできるように環境整備に努め、工夫している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間が一人ひとりの入居者にとって居心地の良いところになるよう季節に合わせて飾り物を変えたり、椅子の配置などに工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>その日の気分等で居室以外で過ごす事ができるよう、椅子を配置し居心地の良い空間作りに工夫している。気の合った人同士お茶を飲み話しをしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人が長年使い慣れた物を生かし、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>必要に応じ換気し、室温計を確認しながら温度調整や、衣類の調整を働きかけ配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はその人の身体機能を活かし、安全でできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や、失敗したと感じる事がないように、その人のできること・できないことを把握し、わかる力を活かして自立できるように工夫している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭、回廊などに玄関や土間から出入りし活動ができるよう工夫され、野菜を収穫したりお茶を飲めるようなつくりを十分活用している。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

生活支援による本人たちの主体的な暮らしの実践を行なっている。職員会議、研修を通してのケアに対する意識の向上、専門職としての専門性の向上